「あっ、ブドウ狩りで会ったことある人」と、人なつっこい顔をのぞかせ玄関で出迎えてくれたのは、このお宅の次女美南（みなみ）ちゃん。

太陽の光がさんさんと家族が集まる居間に降り注ぐ、晴天の土曜日。日の光よりも明るい子どもたちの声。そして家族の笑い声と笑顔が家中に響きわたります。

今回、登場いただくもうひと家族は、菅野（すがの）さん一家八人の大家族です。

主人の三郎さんは、本宮町出身で、縁あって菅野家に婿養子に入られた、スポーツ万能なお父さん。奥さんの久美子さんは、とっても明るく、まるでこの日の太陽のように家族を照らすお母さん。

長男の翔太くんは、ソフトボールに夢中の和田小学校六年生。長女の理沙子ちゃんは、心優しく、面倒見のいいお姉さんで、和田小学校の四年生。末っ子の美南ちゃんは、ちょっとおませでダンスが好きな和田幼稚園の年長さん。

そして、父の敏之さんは、孫思いの優しいおじいちゃん。母の花子さんと祖母のキクノさんは、いつも家族を心配し、孫とひ孫へ惜しみない愛情を注いで見守っています。

「今年は、翔太中心に家族がまわっていた」と話すのは、久美子さん。翔太くんは今年の秋まで、和田ソフトボールスポーツ少年団でピッチャーとして活躍し、さまざまな大会で優勝を収めています。

小学校三年生からソフトボールを始め、最初はグローブの持ち方も知らなかったのが、そのうち学校から帰ってくると野球好きの敏之さんに「じいちゃん、キャッチボールやっぺ」と言うようになり、以前は家の下で二人でよくキャッチボールをしたそうです。

「前は一緒にやっていたけど、年を取ってくるとできなくなる。翔太は、夕方になるまでやっぺって言うけど、夕方になると見づらくなるしない」と、敏之さん。それでも、二人で練習していた当時の光景を思い出し、うれしそうに語ります。家族のひいき目ではなく、一人でも黙々と練習をしていたそうです。そのかいあって、今年は八月頃から成績を残し、家族の皆さんも県内各地を応援に飛び回ったそうです。「忙しかったけれども、楽しかった」と花子さん。両親のお二人にうかがうと、翔太くんは、負けず嫌いで、中学校では野球をしたいと言っているそうです。

長女の理沙子ちゃんもお父さんの血を受け継いだスポーツ好きの女の子。学校の授業も体育が好きで、和田バレーボールスポーツ少年団で活躍しています。先週の十二月九日（土）と十日（日）に行われた二本松市と南達三町村のバレーボールスポーツ少年団が参加した安達地方交流大会では、アタッカーとセッターで活躍し、Cクラスで見事優勝しました。

末っ子の次女美南ちゃんは、ダンスが好きで絵がとっても上手。大手菓子会社の児童を対象にしたダンスコンテストへ向けて、ただ今練習中です。キクノさんは「ばあちゃん、ダンス見せっかんない」と言っては踊ってくれると目を細めます。

菅野家の長男翔太くんは、何十年ぶりに授かった男の子。久美子さんは、「私たち以上に両親（敏之さんと花子さん）はうれしかったんじゃないかな」と語ります。

また、美南ちゃんの良きお姉さんで、面倒見がいい理沙子ちゃんは、「ただいまって帰ると、いつもキクノばあちゃんと花子ばあちゃんが、お帰りって言ってくれる。お帰りって聞かないと安心しないの。誰もいないときは手紙がある。どこに行きますって書いてあるの」と無邪気な顔。

そんな孫たちを見守る花子さんは、「私たちがいないと、じいちゃんばあちゃんてさわぐんだ。だから書き置きをして出かけるの。時間には帰らなくてはならないと思って。心配だから、お兄ちゃんがいても必ず玄関だけはカギをかけておくんだよって言っている。お父さんやお母さんがいないとき、何かあると心配だからない」と孫を案じます。

また、「お母さんの帰りが遅いので、孫たち三人は夕飯を少し食べてお母さんが帰ってくるまで待っている。車がくるたびにお母さん来ないなってね」と、花子さん。久美子さんも「私が帰ると茶わんを取り出して一緒に食べるんですよ」と子どもたちに視線を向けます。

父親の三郎さんは、「今の学校関係をみると、心配なことがたくさんある。まずは友達関係。その原点は家にあるんだろうけどね。みんな個性も違うし、性格も違うから」と語ります。

取材の最後にお互い家族の皆さんへのメッセージをお願いしたところ、「正直言って今は、子どもを育てるのに精一杯なので、両親には負担をかけていると思います。でも、それを支えるのが家族だろうなって思うので、そういった意味で温かく見守ってほしいですね」と久美子さん。敏之さんと花子さんには、言葉では伝えきれないほど感謝されています。

また、「子どもを一人前になるまで、しっかりと育ててほしい。大変だと思うけどない。人に迷惑をかけないで」と父と母の胸のうちを語る敏之さんと花子さん。

三郎さんからは、「子どもたちに優しいお母さんでずっといてほしい」と妻久美子さんへ、敏之さんと花子さん、キクノさんには、「健康で長生きしてください」と、普段口にできない想いを伝えます。

三人の子どもたちには、「人に優しい子であってほしい。また、自分でこうしたいという理想をもって、これから小学校、中学校、高校へと進んでいってもらいたい」そして、応援できることは精一杯してやりたいという姿に、子を想う親の心を感じます。

家族が集うこの場所に、さんさんと光輝く昼間の日ざしは、朝と同じように降り注ぎ、まるで、菅野家の家族の皆さんのようにいつまでも明るく、温かく照らしていました。

あとがき

明るい笑顔と笑い声。登場いただいた渡辺さんと菅野さんのお宅は、にぎやかな八人の大家族です。

今回の取材を快く引き受けていただき、家族のこと家庭内のことを率直に話してくださいました。普通なら他人に話したくないことを、ましてや、多くの村民の皆さんが目にするこの広報しらさわで…。

「ほかの家族にも言えることだから」と言って、いろんなことをお話いただいた渡辺芳一さんと家族の皆さん。

大家族の企画がなくなることを惜しみ、「やらなくなるのでは、今回、選んでもらってうれしい」と言ってくださった、菅野三郎さんと敏之さん。

ご協力いただいた二つの家族の皆さんに、出てよかったと思っていただけるように、そして、家族の記念になるように、また、この日本一すてきな大家族のいる村を知ってもらえたらいいなと、精一杯書かせてもらいました。至らない文章や表現は、多々あったかと思いますが、そこはお許しいただきたいと思います。

大家族バンザイ。白沢村がなくなってもいついつまでも残っていてほしい、郷土の文化と宝です。